

<広報資料>

2012年9月10日

サライ世代のわが家の革命

～雑誌『サライ』住宅特集～

自由な空間と安全をつくる「耐震構法による地震に強い家」

株式会社エヌ・シー・エヌ

本社：東京都港区赤坂4-8-14

社長：田鎖郁男、資本金：1億円

URL：<http://www.ncn-se.co.jp/>

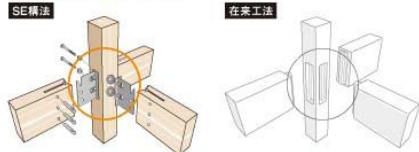
全棟構造計算書付きのSE構法を独立系住宅ビルダー、工務店による全国のSE構法登録施工店を通じて供給している株式会社エヌ・シー・エヌ（以下 NCN、[URL：http://www.ncn-se.co.jp/](http://www.ncn-se.co.jp/)）は、雑誌「サライ」にて既に連「SE構法の木の家を愉しむ」載をしているSE構法。10月号では、連載を変更し、SE構法の解説（バージョンアップを含む）を掲載しておりますのでお知らせ致します。

NCNは、阪神淡路大震災を教訓に「大地震が起きても壊れない木造住宅を」の思いから、1996年に設立いたしました。以来、SE構法の販売実績は、2011年に累計棟数10,000棟を突破し、2012年3月現在で、累計棟数11,966棟の実績となっております。

今回、SE構法のラーメン構造の特徴や在来軸組工法との耐震性の比較など、SE構法のバージョンアップした内容を含め再認識していただける内容となっております。読者である、衣・食・住全般にこだわりの高いシニア層の方々に向け、最先端の技術によって可能性を広げたともいふべき「SE構法による木造注文住宅」のポイントを訴求する内容となっております。

（詳細は、こちらでご確認ください。<http://www.ncn-se.co.jp/media/magazine/8se3.html>）

強度を実現する独自の接合部

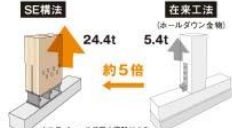


強さの秘密(1) 構造用集成材



●集成材に対して、約1.6倍の強さが期待できる信頼性がある。資源を継続活用できるよう、持続可能な方法で管理されている森林から採取した木材を使用。

強さの秘密(2) 柱脚金物



●在来工法では柱の掛けが原因の家屋倒壊が多発するが、SE構法は引き抜きに対し、一般木造住宅の約5倍の強度を持つ。

強さの秘密(3) スクリューボルト



●定型がスクリューボルト。この表面にはネジ加工が施されており、負荷がかかっても抜けてくく、また木材が乾燥・収縮しても壊さず、剛性を維持できる。

問い合わせ先 エヌシー・エヌ ☎03-5775-7353 <http://www.ncn-se.co.jp>
●資料請求 本特集の最終ページより掲載企業の資料請求ができます。

●在来工法では、柱には梁を挿し込むためのホブ穴が空けられる。この柱に地震の力が加わると、柱の折れを招き、家屋倒壊の原因になる。SE構法では、柱の欠けた部分を最小限に抑える独自のSE金物を採用することで優れた耐震性能を実現した。

で建てられているが、中絶地帯、東日本大震災で、構造設計の報告はないという。この耐震性能を可能にするため、欠かさないのが構造用集成材、構造用集成材とは、強度に応じてカットされた木材を接着してつくられた建築用の部材のこと。集成材は自然素材のため、強度に大きなばらつきがあるが、構造用集成材は工業的に作られるため、目的に合わせた強度で製造することができる。しかも工業製品のため、コンクリートや鉄と同様に強度計算ができるのが特徴だ。SE構法

では構造用集成材を用いた柱や梁を、独自開発の金物で強固に接合する剛接合を採用する。ここに柱と梁を一体化させるボルトには、業界初めての構造用集成材にスクリューボルト(ネジ型部)を使用している。全棟で構造計算を施す。一般的な建築基準法において、一般の木造住宅で以下に住宅では、構造関係の書面提出が義務化されていない。そのため、木造2階建て以下の建物も多くは、木造2階建て以下の建物の多くは、ほとんど安全性が確認されないまま建て

てられているところもある。SE構法は、すべての建物で構造計算が義務づけられている。またこれには地震と建物とを基礎構造構造として扱っている。SE構法は、構造計算によって、耐震性能を数値化する。安全・安心を可能にする木造住宅といえよう。また従来の木造住宅は、地震の力を減らしたことで、木造住宅から、これまではなかったような大きな揺れを生じることが可能。自由にアレンジできる空間・耐震構造と融合したSE構法なのである。



●SE構法によるLDKでは30畳もの大空間を実現。吹き抜けや大型窓も得意とするところ。

年齢や生活の変化によって必要空間取りは変わってくる。しかし木造住宅は一度建てたら、柱や梁の位置を変えることはできない。多くの方が考えているであろう、しかし下の図を見てください。エヌシー・エヌのSE構法で建てられた木造住宅なら、強度を維持するための構造や基礎、外壁といった固定部分以外は変更することが可能。つまり建てた後からでも、生活スタイルに合わせて、間取りを一新できるのだ。つまり従来の木造住宅では、間取りの変更ができないのか。その理由は、これまで住宅の強度は壁と柱の柱に比例するとされてきたからだ。

●この間取りは、ふたつに分けられる。●固定 構造・基礎・外壁・扉などを●変更可能 仕切り壁・内装・上げ床を

●耐震に特化した独自の工法。この構法が誕生するきっかけになったのが、より安全な地震対策。大震災。被災地日本に住んでいる多くの人が、安全・安心を求めている。安心して暮らすことを願っている。安心して暮らすこと。耐震に注力した建築方法なのである。これまで以上に安全なSE構法

自由な空間と安全をつくる
耐震構法による地震に強い家

エヌシー・エヌ SE構法

【掲載記事(雑誌サライ 10月号)】

『サライ』2012年10月号(9月10日発売)は住宅特集【サライ世代のわが家の改革】が組まれており、自由な空間と安全をつくる【耐震構法による地震に強い家】と題し、SE構法のポイントにフォーカスをあて、分かり易く解説を行っています。

間取りの可変性や構造計算、そして構造計算を可能にする集成材からSE金物にいたるまで、在来軸組工法との比較を交え、耐震構造と安心して自由にアレンジができる空間の融合したSE構法の基礎ともいえるべき内容が掲載されています。

(詳細は、こちらからもご確認できます。 <http://www.ncn-se.co.jp/news/information/>)

これからも、地震に強く安心して安全な木造住宅の普及とともに「木造住宅のよさ」をより多くの方に知っていただけるよう邁進してまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

<雑誌『サライ』について>

『サライ』とは、ペルシャ語で、「宿」の意味です。「わが国初、大人の生活誌」として、1989年9月に小学館より誕生しました。以来、シニア向け雑誌のパイオニアとして、高い支持を受け続けています。

(<http://www.webserai.jp/>)

以 上

■ S E 構法について

S E 構法とは、コンピュータ制御による高精度プレカットによって作られた集成材を軸組部分に採用し、接合部にNCN独自開発によるS E 金物を使用することによって、圧倒的な構造強度を実現、大空間や大開口を可能にした住宅構法で、国土交通大臣の一般認定を取得しています。また、CADと連動した立体応力解析を物件ごとに行うことで、「勘」に頼らない、具体的な構造計算のデータを基にした安全性を確保できるため、真に安心して建てることのできる住宅として注目されています。また、施工する工務店も、NCNが開催する講習を受け試験に合格し登録施工店の資格を取得する必要があります。現在454社（2012年3月末現在）が「S E 構法登録施工店」として活躍しています。創業以来、全棟構造計算・全棟性能保証を実施し、延11,966棟（2012年3月末実績）の構造計算を行ってまいりました。また、SE構法による大規模建築物（非住宅を含む）については、336棟の実績がございます。

※本文中記載の社名、及び商品名は各社の商標または登録商標です。

■ S E 構法の詳細については、こちらをご覧ください。ホームページ：<http://www.ncn-se.co.jp/>

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社エヌ・シー・エヌ
総合企画室 松延（マツノベ） まで
電話 03-5775-7357、FAX03-5775-7350

URL：<http://www.ncn-se.co.jp/>